



■幸福とは…？

現代とは、「たのしみ」はあっても、「よろこび」のない時代と表現することもできます。

極端に言えば、楽しみはお金で買えますが、よろこびは求めて得られるものではなく、気づきによって得ることができます。

この六十年間程、私達は豊かになれば幸福になれると思い、便利になれば幸福になれると考えて生きてきたのではないかと思います。

物資が極端に不足し、不自由な生活を強いられてきた反動かもしれないが、一方では大量

いま、なぜ仏壮が必要か

仏教壮年会連盟活動推進講師

小林 顯英



生産をし大量消費をするこによって、深刻な環境問題を引き起こし、他方様々な電化製品を生み出し、驚く程便利になりましたが、格差の激しさを創り出しています。

子どもの頃には、思い描くことすらできなかったほど、豊かな社会になり、便利な日常が創造されてきましたが、果たして幸福になったと言えるでしょうか。幸福感というのには実にやっかいなもので、同じ状況であっても、自分より恵まれない人を見つけると、満足をするのですが、自分より恵まれた人を見ますと、たちまち不満が生まれ、

特集

教区の「仏教壮年会」拡充活動(2)



ねたみ・ひがみを起こします。

元来、幸福というのは人間の創り出した虚像であって、これが幸福という実像など存在しません。ですから私の知る限り、浄土經典に幸福の文字は見出すことができません。

一人ぼっちで生きられるか

それよりも、豊かさや便利さを追い求めるあまり、引き換えに失くしたものが沢山あることに気づくことが大切だと思います。

失くしたものの一つに、言葉があります。最近、挨拶をした言葉や言葉を交わすことが減ったと思われることがないでしょうか。言葉を交わすということは、

この私の悲しみ・淋しさを見抜き、知り抜いて共に生きてくださっている「はたらき」が「南無阿弥陀仏」であります。

一人ではなかったよろこびを、共に手を携え、励まし合う仲間こそが、仏壮の「朋友」であります。



<http://www.hongwanjibussou.jp/>



仏教壮年会連盟
ホームページ
開設！

仏教壮年会活動のさらなる活性化をめざし、仏教壮年会連盟ホームページが開設されました。

連盟の活動報告をはじめ、今後どんどん充実していきます。

今すぐアクセスを！

仏教壮年会連盟会員式章 制定！

仏教壮年会連盟に、待望の会員式章ができました。

唐門の牡丹の紋様をモチーフにした、鮮やかなグリーンの新しい式章。お揃いの式章で活発な活動を！

取扱：本願寺出版社 (0120-464-583)
価格：3,000円(税込)

編集後記

連盟になり、活動の活性化・組織の拡充は重要なポイントとなってきました。

第二号に引き続き、今号と次号において具体的な活動の足がかりになるよう各地域・各方面からの手記をいただきました。大いに参考にして、日常活動に役立ててください。

広報委員 北川 佐一

皆で『朋友』を作っていきましょう！

本機関紙『朋友』では皆さまからのお便りをお待ちしております。

ご意見ご感想の他、ご自分のお寺や組の活動報告など、どしどしお寄せください。

【宛先】

仏教壮年会連盟事務局

〒600-8358 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内
TEL: 075-371-5181(代) FAX: 075-351-1211
メールアドレス: bussou@hongwanji.or.jp
(名前・連絡先等をご記載のうえ、郵送、ファックス、メールにてお寄せください。)

長野教区

静かな町に組仏壮の息吹

―「山地組仏教壮年会連盟」が発足―

長野教区 山地組 明泉寺 金井達也

■「寺」では仏壮が作れない

長野教区山地組は長野別院から十五kmほど北に位置し新潟県境にかけての十ヶ寺からなり、生活圏は長野市中心という静かな農村地域です。

また、私も長野教区山地組には仏教壮年会の組織はありませんでした。正確に言うとお寺が休止状態であり、寺単位の仏教壮年会を立ち上げようと度々努力したが組織作りができない状態が数年続いたとお聞きしていました。

そんな中、長野教区仏教壮年会連盟主催の「第十四回基幹運動研修会」の開催が「山地組」と決まり、私も山地組は仏教壮年会を立上げ当番として皆を迎

えることになった、と組長よりお聞きし、その会議に出席してない私が立上げを依頼された次第です。

研修会まで一年も切っており一時は辞退しましたが誰かが立上げをしないと前に進まないと思いつつ「泥縄の立上げ」をスタートさせました。寺単位の組織は時間的にも過去の経過から見ても不可能に近いので「山地組仏壮連盟」として立ち上げる計画を



立て仲間探しが始まりました。

■十余名の「組連盟」立ち上げ

幸い、組には門徒推進員がおり、また連研修了者で当年に中央教修の修了予定者も加え数名で、実際活動できる人を中心に発足を進め、おかげさまで声をかけた人全員に協力をいただいたうえ、仲間を誘っていただき十名を越える会員で発足しました。

女性も会員になっていただき三月の一泊二日の研修会にも参加していただきました。

三月二十八日～二十九日に開催された「第十四回基幹運動研修会in山地組」には山地組からは十三名の住職・会員さんが参加していただきました。長野県下から参加いただいた皆さんと有意義な時を過ごし、良い経験やすばらしい出会いがあり来年も参加したいという声が多く聞かれました。

過日、皆で反省会と二十一年度の計画を立て、各種事業への



積極的参加は当然だが皆で金沢の本願寺展を見に行き美味しい魚で一杯飲もうという事になり、今から楽しみにしています。

私も山地組仏壮連盟は発足間もない小さな組織ですが、将来は総代仏壮・仏婦・門推が本当のつながりで一緒にできたらより一層一体感が強まるのではないかと考えています。

今後ともよろしく願います。

合掌

沖縄特区

沖縄初の仏壮はこうしてできました

―組織拡充強化は法座活動で―

沖縄県宗務特別区 真常寺 住職

北村昌也



る男性にとつては夜の方が集まり易いのです。そしてこれらの法座に長年集ってきていただいた人達を中心に『仏壮』と『仏婦』が二〇〇四(平成十六)年に結成されたのです。又二〇〇六(平成十八)年からは『真常寺寺院連研』も開催することができ(申込者二十二名)今年六月には『門徒推進員』も三名誕生いたしました。

■大切なのは法座活動

最近全国では法座活動が少なくなっているようですが、組織拡充、強化の原点は法座活動です。寺院でコンサートをやったり、落語会や有名人の講演会を行って人集めの努力はされているよ

うですが、そこに集った人々を門信徒となるまでに導くには法座活動しかありません。これは蓮如上人時代から変わることはありません。法座に集い、ご法義を身につけた人々がその後、各種教化団体を組織してこそ『あなたのお寺を強くしよう』と言うスローガンに叶うのです。その為には僧侶も『形ばかりの僧侶』でいるわけにはいきません。

僧侶が身を正してこそ、はじめて門信徒の方々とお念仏繁盛の為に何をしたらよいか、話し合うこともできます。

良し悪しは別にして、今都市を中心として寺壇関係が崩壊し始めています(沖縄では最初からありませんでしたが)、これか

らはたとえばハワイ開教区のようにメンバーシップ制度というものも考えていくべきだと思えます。とにかく組織拡充、強化の為には、絶え間のない法座活動が最も大切なことです。全国の一万余ヶ寺が全て定例法座を始めた時、『百万人の門徒創出』も必ず達成できますし、これ以外に宗門の組織拡充はない、と考えています。

南無阿弥陀仏

仏教壮年会連盟 綱領

われわれ仏教壮年は、
自らの生き方を
親鸞聖人のみ教えに聞き、
ともにお念仏申す朋友の
輪を拡げ、
心豊かに生きる社会の
実現をめざします。

宮崎教区

心の通うお寺、お念仏の薫るお寺

——一人ひとりにピントの合った組織に——

宮崎教区 広瀬組 光源寺 住職 平野孝史

■「スローガン」を掲げて

この春、私は住職になりました。現在のお寺にご縁をいただきました。四年。まだまだ手探りで、門信徒さんのお力添えをいただきました。が、日々の法務を勤めています。

この度のご縁にあたり、私は、継職の際に掲げた「心の通うお寺、お念仏の薫るお寺」というスローガンを思い起こしました。

私のお寺の寺報で、「この夏は、数十件の初盆をお迎えになるご家庭があります」と掲載してしまいました。

数十件。数で表した時には、何気なく聞き流してしまうような数字です。でも、そのご遺族の一人ひとりには、亡き方を偲ぶ涙

がありました。例えば、亡くなっ

たおじいちゃんにかけてもらった言葉、頭を撫でてもらったその手の温もり……。ご遺族にとって、どれも忘れられない大切な思い出ばかりです。

ご遺族の方の涙。その涙に私が思いを馳せる時、少しでも、その方のお気持ちに寄り添わせていたきたいと思います。「数十件」という言葉だけで片付けられない涙を思い、お一人お一人の哀しみや喜びのお気持ちを共にする住職でありたいと思います。

それを止めた時、私の代で私のお寺は、「南無阿弥陀仏のお寺」であることを終わらせたことになると思います。それは、組織拡充以前の問題です。

■「一人ひとり」を

大切にした組織を

私自身もそうですが、お寺は組織に所属する人数、組織の活動、組織の協力状況に目が向きがちです。

それも大切なことなのですが、蓮如上人の法語の中に、「一宗の繁昌と申すは、人のおほくあつまり、威のおほきなることにてはなく候ふ。一人なりとも、人の信をとるが、一宗の繁昌に候ふ。」とあります。

蓮如上人の法語に、組織拡充を尋ねてみた時、浄土真宗寺院の組織の本来のあり方を思い出します。

それは、お念仏の心をいただ

いていく組織であり、お念仏の心が通い、薫る組織であることでしょう。

「仏教壮年会の誰々さん」ではなく、阿弥陀様の前で、お互いにお念仏をいただく一人の人間として、一人ひとりにピントの合った心の通い合う組織を築いていきたい。私はそんな思いにかられます。

組織の拡大のみが目的になるのではなく、私を含めた、組織に属する人間が、お念仏のお心をいただいていくこと。それこそが組織拡充の第一歩なのではないでしょうか。



第2連区

つながわれら

——第五回 第二連区(北陸・中部)仏教壮年大会——開催——

大会実行委員長 竹内秀博
福井教区仏教壮年会連盟理事長

『第五回第二連区(北陸・中部)仏教壮年大会』をご門主様のご臨席のもと、福井教区仏教連盟が主管して、六月二十八日(日)に越前市のサンドーム福井にて開催しました。

今大会の開催にあたって、私たちの会員数は約七百人とその力は

弱く、第二連区内仏壮はもとより当教区の組、寺院をはじめ門徒や仏婦の皆様のご温かいお力添えをいただくなかで、目標としていた三千人を超える皆様をお迎えすることができました。

また、厳かで立派な大会にしようとして、教務所のお力を得ながら、実行委員会を立ち上げ、手づくりで準備を進めました。そのなかで、第二連区初めての試みとして、お勤めを『音楽礼拝』でさせていただくことや、六教区の代表による音楽礼拝の献灯・献華・献香、仏教連盟綱領や大会決議文の唱和が実現しました。

大会テーマは、『親鸞聖人七五〇回大遠忌』のお迎えを前に、全国仏社会議が連盟化し第二連区また教区においても自主・自営の活動が求められているなかで、基幹運

動の中核を担う私たちが今大会を機縁に何を信条として活動していくのか議論を重ね、『つながわれら』としました。

『つながわれら』は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏を申しながら、『生命の尊さに目覚め、ともに敬い合う支え合うお念仏の人生につなげよう』、『心豊かに生きる社会の実現を目指し、未来を担う子や孫たちにみ教えをつなげよう』、『私たち朋友と朋友が心をつなぎ合い、新たな広がりにつなげよう』など、このような仏教活動を着実に積極的に実践していくことを目指しています。

先に述べたとおり、今大会には目標を上回る大会参加という形で多くの皆様からご支援とご協力をいただきました。これらは、大会を立派なものにさせてやろう、仏教を大きく育ててやろうという、まさしく同信の朋である皆様のおこころであり、『つながわれら』を私たちより先に私たちに向かって、行動でおいしくいただきました。



これから先、私たちは皆様からいただいた深いご恩を胸に刻み、『つながわれら』を本分として、一丸となって仏教の充実と育成に邁進してまいりますので、仏教連盟会員の皆様にはご指導、ご支援をお願いいたします。

大会後、参加してくださった寺院から、「このような大きな活動をしているとは知らなかった」、「参加者が仏教を結成したいと言っている」といった声が寄せられ、大変にうれしく感謝しております。



2008 (平成20) 年度
幹部養成研修会

「明日の宗門と仏士の役割」テーマに

―二〇〇九(平成二十一年)三月七日―八日宗務総合庁舎にて開催―

仏教壮年会連盟広報副委員長 田方 均



なされました。

全国各教区より参集されました会員の皆様、大変お疲れ様でした。日頃の活動から熱い思いがいっぱいの御同朋に頼もしく嬉しいかぎりです。

研修会に参加された方からは、努力しきれない自分に、凡夫だ愚者だと気づかせていただくことが救いである。いろいろな力をいただき生かされていることに気づかされ、「おかげさまで」と素直に感謝することの出来る素晴らしさに、仏士に出会えて良かった。これからのちの尊厳を求めて仏教壮年会活動を通じて、まず身の回りにおいていろいろな課題に組みみたい、などという感想が聞かれました。

全国に仲間ができる喜び、素



い予定時間をオーバーするほど熱心なのに講師の方々もびつくりでした。

また、全体話し合いやパネルディスカッションでは、単位会における社会的活動やお寺にかかわる疑問など、活発な話し合いが

晴らしい人との出会いに、大変有意義な研修会でしたとの参加者からの声に、スタッフ一同、次回もより充実した研修会にするため、気持ちを新たにいたしました。

御同朋の社会をめざして、次回は二〇一〇(平成二十二年)年三月十三日から十四日の開催予定です。



幸田昌三理事長が、研修会のねらいについて話され、勤行・仏教讃歌の練習後、「新たな始まり」明日からの宗門の基盤づくり」と題して講師の宇野哲哉中央基幹運動推進相談員より「浄土真宗の教章(私の歩む道)」のお心や制定のねらいについて講義があり、愚禿釈(非僧非俗)の名告りや非僧非俗のお心を味わいました。

次に小林顕英講師が基幹運動総合計画を踏まえ、「仏士会員として具体的に何をなすべきか」と問題提起され、四班に分かれて、一班宇野相談員・二班小林講師・三班高橋哲了講師・四班藤井邦鷹講師及びスタッフを交えての話し合いに入りました。

法座では活発な意見が飛び交

仏事解説 ①



喚鐘

仏教壮年会連盟活動推進講師 小林 顯英

本願寺第一四代寂如上人の一六八八(元禄元)年十一月、「両御堂間の長廊下に始めて小鐘(喚鐘)を掛け、まづ洪鐘(梵鐘)を撞いて衆を集め、次に小鐘(喚鐘)を撃ちて道場を開いた」という記録が、『本願寺通紀』という書物に出ています。

寺院の鐘楼(鐘撞き堂、釣鐘堂と呼んでいる所もあります)に吊る青銅製の大きな鐘で撞木でつき鳴らし、一般的に大鐘・釣鐘・洪鐘とも呼ばれているものを、梵鐘と呼ぶのに対し、喚鐘とは、梵鐘の小型のもので、小鐘・半鐘とも呼ばれています。

梵鐘が集会鐘ともいわれますように、朝夕の定刻や、法要開始の一時間とか三〇分前に撞かれ、時刻を知らせるのに対して、喚鐘は、本願寺派では法要の直前にT字型の撞木で打たれ、僧侶への出仕(堂内、内陣に入って、お勤めをすること)の合図に用いられますので、行事鐘といわれることもあります。

第5連区

「浄土真宗本願寺派九州地区門信徒の集い
第二十一回 仏教壮年福岡大会」
開催にあたって

福岡教区仏教壮年会理事長

福岡教区評議員

入江 一孝



来る二〇〇九(平成二十一年)十一月三日にご門主様のご臨席を仰ぎ、「浄土真宗本願寺派九州地区門信徒の集い 第二十一回 仏教壮年福岡大会」を福岡国際会議場にて開催いたします。

今大会は、二〇〇八(平成二十一年)四月一日の仏教壮年会連盟発足後、初めての九州大会です。それとともに九州地区の仏教壮年が一同に集い、来る「親鸞聖人七五〇回大遠忌」をお待ち受けする大会となります。

この記念すべき大会を契機に、御同朋の社会をめざし、「ともにいのちかがやく世界へ」の実現に向けて、その中核となる仏教壮年会活動の活性化

と充実を願うものであります。特に、各寺仏教壮年会結成の促進については、本大会において仏教壮年の結集を強くアピールしていかねばならないと考えます。また、今までの活動を継承しつつ、「親鸞聖人七五〇回大遠忌」さらにはその先に向けて、私たち仏教壮年が今、できることをもう一度考えていく大会にしたいと思っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。